

授業科目名	人間教育学ゼミナール（応用）(2100310)		
時間割名	人間教育学ゼミナール（応用）(35111)		
時間割担当	小竹光夫		
実施期	通年	単位数	4 必修 選択
曜日・時限	水・5		

授業の目標・概要

各自の課題を論文や制作活動の中でまとめ上げる。自らの関心がある分野についての研究をまとめ、形にすることによって、自らの人間教育学に関する学びの集大成とする。

人間教育学として、自らが深めていきたい専門領域を決め、基礎科目ゼミナールで身につけたアカデミックスキルを駆使し、専門分野の文献や論文によって見識を深めていきます。必要に応じて、実習や地域交流などを行い、主体的に自らの専門性を深めていく。

本ゼミナールでは、文字を手書きすることを中心とはしているが、いわゆる「ことばの力」に至る広範な分野を包含しながら研究を進め、その理解と演習を行ってきている。それらを踏まえながら独創的な研究を構築し、各人の生きる力として習得していくことを目標とする。

学習の到達目標

文字を手書きすることを中心とはしているが、いわゆる「ことばの力」に至る広範な分野を包含しながら研究を進め、その理解と演習を行ってきたことから、理論的な部分では文字に関する広範な研究を、実技的な部分では毛筆の特性を生かした表現活動を念頭に置いて総括を行う。

一生を通じて学ぶ力を育成するために、課題の分析と考察、さらに文章化していく力をつける。

授業方法・形式

- 1.それぞれの学習テーマに対して、補助資料を活用しながら学習をまとめる。
- 2.それぞれの学習経過を文字化し、適宜、発表機会を設けながら学習をまとめる。

授業計画

- 第1～2回 学習の基本方向についてのオリエンテーションと、各自の学習計画を作成する。
- 第3～7回 各自の研究計画に基づいて、研究発表会に向けた研究論文・作品を作成する。
- 第8回 研究発表会を実施し、各自の研究内容を提示しながら学びを共有する。
- 第9～13回 各自の研究計画を再検討し、最終的なまとめに向けた研究論文・作品を作成する。
- 第14～15回 研究発表会を実施し、学習経過や成果をまとめる。
- 第16～17回 学習を進める過程についての助言・指導を行う。
- 第18～22回 各自の再構築した研究計画に基づいて、研究論文・作品を作成する。
- 第23～24回 成果発表会を実施し、各自の研究内容を提示しながら学びを共有する。
- 第25～28回 各自の学びの過程を文章や作品としてまとめる。
- 第29～30回 ゼミ資料を完成させ、1年間の学習成果を集約する。

成績評価の基準

研究発表会での成果、並びに作成するレポートを相互に評価しながら、育成され、習得できた力を対象として評価する。

準備学習・復習及び授

課題とする分野についての参考図書は、毎時、紹介する形で行う。図書館やネットワークで関連する文献・資料を日常的に検索し、整理していくことを行う。

履修上のアドバイス及

学びの基本は興味関心と継続性である。意欲的かつ主体的な態度で臨んでほしい。

教材・教科書

必要としない。ゼミ通信の形で、毎時指示し、課題を提供する形で進行する。

参考書

個々人で課題とする内容が違うので、各人に文献紹介を行う形で進行する。